291
66

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03992

安宅氏由來記

291
66

2
1

県立串本古座高校所蔵　中根文庫資料番号 03992

291
66
1

中根文庫

古座高校図書館
28.10.21
蔵書NO. 3992

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03992

安宅由来記

抑当所無隠安宅左日之由来ハ寿見ハ二、法和源氏新羅三郎義光ヲ祖加ヲ賜ハリ遠光ヲ二男小次郎長清小室原ヲ姓ヲ改、義久ヲ乱ヲ行ハ西ヲ鎮ヲ四国ヲ賞領上四位信濃守ヲ職、長清八代ヲ孫河内守教春根塚ヲ熊野大知家田其外所々、一要害数多ヲ築依ヲ大知川数十在田辺富田川ヲ数ヲ掠下陸ヲ佐井筋迄領、此時大知ヲ安宅ト改安宅新左衛門入道ト称ス在ヲ所後ニ安宅ト申所有、三郎ヲ十河ヲ四国法名ハ義正寺殿天義玉泉大大士教ヲ正孫安宅備後守教夏四国ニ最多領、熊野ヲ築正年中四国ヲ筭寄ヲ称セラル上郷ニ成ル其子主殿九国所々ヲ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03992

領、一宮太郎次郎家ガ塩冶支配、出雲ヲ領内、
ヲカレシ家臣ニ、女城代ヲ田賀左馬頭俊次、山井左京、小山
八郎、生駒右京大夫、知原左馬、和田上付、中村左近、富
山懐、筆墨元五郎、（横田右馬頭ニテ）中山主税（吉田馬谷ノ家）
並木下野（安宅ノ家ヲ持）四宮蔵人、稲葉助左衛門、山中喜助、
同白市、大野相模（大野毛ノ家ヲ持）横田作左衛門、村田太郎左衛
門、中村弥兵衛、林主税、同新兵衛、同弥次郎、福田丹波、
桂大和、大野長門、梶山主馬（陰谷ノ家山言ヲ持）吉田備後、生駒主
左衛門、田所主馬、村田蔵人、同藤次（内藤ノ家）
（原答ニ）同大坂藤次郎、並木幽斎、宇佐美藤八、尾
張正、南右門、北市大、田井肥前（田井ノ家ヲ）、彦一刑部、太田
川藤（行方南一宮六郎次郎ノ家ヲ一族ニテ）

左衛門、山角金吾、藤、市橋野左衛門、原、海老
原、次郎舟正入道、横尾、村上弥兵衛、大岡清正、二木大膳、
吉田弥兵衛、事谷幸右衛門、上井、西中、宮井、竹恒内、一
和田、陶大膳左衛門、蓮崎、庄屋、小坂、人金子、
坂、陶上、清名、伊澤、久保、梶田、宇野、鈴木、
同治良、清水右兵衛、牛坂、岡、東野京志郎三郎、村田
太文吾、黄、代ヲ無理法ヲ治士也
安宅ヲ玉杉丸所注宅ヲ孫ヲ（一族家ヲ義保次郎ノ家ヲ）
婿孫安宅大炮助（安宅ノ子孫ヲ無理ヲ城）
安宅後ヲ世家孫筆中安宅次郎。大野宗俊ト家替ノ妻ヲ
合縁アリ 甘沼第ヲ南ヲ宗俊逝去ヲ節、長男新助安宅
幼少ニシテ領内ノ政務如何アラント金子次郎。太文宅俊

こ代ヲ預ケ安定十五才ニ成ハ家ヲ譲レ隠居ト称ス名ヲ上ヲ家ヲ継ニ、レヤ書家ヲ
剃髪安宅ヲ宮セントス、依テ無人ノ後ニテ書宮ヲ背
鉢、宮後大運ナレハ鉢ニ討死数々ニ成所々ノ逃ヲ
宮ニ中村出羽、大谷相撲、中村要人、相原而部大夫、林兄
弟、矢田信弾助、田中右近兄弟、二木八郎、一和田、杉原
右衛門、笠井、吉上、大成、四宮、吉尾、生木、田浦等宮後ヲ
討テ安宅ヲ世ニ云ント辞宮シ、相甲ニ安宅ヲ宮ヲ宮ヲ、相宮近
退所家君顧之人ヲ集ニ高ニ〻ト馳集ル
宮三山社人数百人一族ニ安宅ノ三郎信定、同弟治良、
同長門守、同右近大輔、同左馬、同左馬
鉢木助吉門、小杉原兄弟吉治、板原大夫、安宅民

部大輔ヲ大将トシテ本宮、未ル相外思顧之家臣数
多安宅ニ方ヲ合セントス所ニ〻ト叫タリ、湯川左馬ノ口部之
士ヲ特集三百許田辺ニ陣ヲ取、田辺宮田一士馳加リ
今餘人ニ成ル、此時那賀上ノ坊元来安宅入道信名ヲ
ハシテ一郎功ヲナシ一家ノ安宅ヲ見ト田井右近（田浦井右衛門）
相ヲ安宅本宮ニ有ヲ諸士ノ合力所ニシテ叶カタシ那賀ノ
登山方ニ牲一山之人ニ、残レ兼ヲ変ヲ計レトモ右近此時那
智ニ居ケルカ紀下久木小山表ノ山ヲ登ヲ本宮ヲ、手間ヲ方遣テ
則安宅始ノ諸軍勢登山シ上ノ坊ヲ本陣トシ日々ニ軍ヲ近ク
安宅川ノ城、宮ヲセントス
源部大夫輔宮後対戦ヲ別中宮、北尾、生駒、一和田、桂、
太地、小山ヲ以テ宮田西ノ谷城ニ陣ヲ張リ坊ヲ防カントス

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03992

湯川ガ先陣ハ湯川武部、宇井掃部、右御方共ナリト一
隊前千ニ兵共ニ進ミ攻入ハ防ギ遂半ニ対シ和田、桂
ニナハ人ニ帰ツ国若ヲ後ニ寄合限事ヲ二人ニ殺ス
対シ二ケリ
湯川方ニ雲長清左近、清吉宇、吉田賀内二十余
人対北京手ニ備ヲ乗レヲ安芸田辺中ニ乱入下ニ立ヲ
大将若宮安定法一事ヲ川事周参見ニ攻入ニ先陣
ハヤ若宮ノ上ニ掛ヨンレヲ定俊カタノ長是ヲ防多計シ
陸山ノ一番山ニ川辺次部太輔定俊ヲハ惜山ニ懸ニ
防ニカトニ那智上ノ坊ニ百余人長先ニ進ハ陸ヲ当家ニ
門衆宮他門事長数ヲ知レヲ攻ケリ喚キ叫ヲ攻ル敵内
ニ長数ヲ敵ヲ防レカ若宮大事ナレハ叫ヲ幸福三年

ノ霜月四日宮俊始相陸部党二百余人自害ニ一時ニ
煙ト成、陸山ニ籠レ逆臣等ヲ暫ハ防ギ工ヲ次第ニ
寄行絶ノ城ニ及ケン
実ニ又一家ノ左司ヲ黄家恩顧ノ臣ヲ一族ニ
谷大臣ヲ外在ニ為家人数ヲ従逆ニ人ヲ
田辺井ニ近ニ之ヲ聞キニ安芸生木宇庭大宮根
本矢田中島十山等ヲ俱レ所ヲ一度ニ寄ヲ責
陸レ五十八人カ方ヲ切ヲ周参見宮ニ寄ヲ
周参見大坂其一番望ニ用心周参見ノ左司ヲ討ント欲
中ニ中山ニ懸ヲ悔ヲ掃部ハ大事思ヨヲ事ヲ
急ヲ下ヲ孫十九大上駒詰藤原河内ヲ宮カレ家臣
等皆大坂ニ一味及城ヲ領ノ興山ニ退北支安宮ノ

大坂相模数百人ハセ向ヒ大坂ヲ奪ントセシハ南蛮兵
左月カヲ降ヲ山本位馬、仔細、田所、和田等ヲ伴ヒ至
道ヒ京義丈場家ヲ絞ノ大坂ヲ赤岡ヲ中山ヲ有又ヲ家
行ントスルニ家子ニ大将方ヲ。撰カ射カセシ左ヲ左り出ヲ
射ラレヲ景早カヒカタノ思ヲ勝有ヲ死ヲ逃ヲ帰ヲ
所ヲ城ヲ後ヲ殺ん」義ヲ逆賊安宅、属ヲん支駿
ヒ陽川左月宮田ヲ陣ヲ取ヲ諸軍ヲ指向ヲ軍勢保ヲ
及ハ後詰ヤント待ケルニ八幡城後詰ヲ保ハ以ヲ自
害所ヲ城ヲ書ヲ立ントヲ田望弁仕ヲ山春ヲ攻ヲ法
進陽川左月大キニ悦安宅ノ武勇ヲ感ヲ勝ヲ十ヲ
帰城有安宅ノ本城ヲ入ヲ御軍ヲ祝儀アリ号阿波
守ヲ任ヲ第城三ヲ年ヲ富ヲ富ヲ諸ヲ方則也

臣ノ面々ヲ居ラレケリ阿波国ヲ一揆ヲ城ヲ安宅ヲ武勇ヲ賞
ト感ヒ新宮三好宗前六十長慶阿波ヲ在城シテ四国ノ管
領ヲナサント窺ヒ久保其ノ外ヲ安定ヲ待ヲ思
ヒシカト一門ト云有時ノ三好長慶ヲ事ヲ強ヒ当家ノ家
臂安宅河内守ハ長慶ヲ謀ヲ三好左京大夫義継
同義次郎長治、同性理大夫存保ト云後弟カ多ク
然保深ケレハ同心ノ趣ヲ宮ヲ出ヲ安宅河内守法
名由良ヲ居城同其三郎ハ城ヲ摂津国ヲ居住三好党
ハ同国堺田ヲ一番ヲ摂津ヲ三好ト云安宅振津守
名長同深八郎、同其六郎ヲ之、同国市場良、同角
又四郎ヲ長治同性理ヲ皆同性ヲ方ヲ三好ヲ一味ヲ義ヲ叶ヲ
ヲ、安宅ヲ安定ハ無ヲ安宅ノ城ヲ方ヲ一味ヲ軍ヲ相

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号 03992

信玄陽川左司に問ヘレハ大ニ驚キ早畠山殿、一味
衆ニ相成れハ以ニ中城河内守安宅始家臣中邑又
名主、新原大夫、林清隆、大地矢田相庄、姫田治良
左エ門中田雅楽助古屋桂之丞集ル此外アラヤト浮勢ヲ
合ル武部大夫、鷹匠田中摂津守近ヲ好家四海ヲ
尋ル招ニヒルレクト雖モ天ノ咎メヲ恐レ今ハ勢
盛ナレトモ畠山方ハ一味ト名ヲ顕ハ後代ニ弑逆ノ
本名ヲ残レト陽川ハ他清ニ向ヒ畠山ヲ系ハレト云上
上悦ヲ小松原ニ明ルコトヲ信ニ一揆ヲ使ヒ別勢味方
ト成ル事ハ道ヒハ方ナカラ是非ニナリ畏ル也
サレハ一揆ヲ使ハ河内ハ外ニ方ハ城織田信長ト言ル
ヲ合ル最中郎等竹内ニ安宅ニ方弑ル京ノ兵

強ニ対面候ハ
実ニ畠山左京大夫方ハ河内最新任ノ三ヶ国之守
護職ニ河内方ニ成ル陽川左司玉宅左司
根来衆徒目良、祥保、山深、青志、白樫、宮田、飯沼九郎
左エ門、熊神、而部、安宅河内守（新助安宅ノ父）内氏
部大夫、内左近大夫、内角ヶ丸左司紀ヲ合ル数千
余騎畠山方ハ三ヶ所ニ陣ヲ張大将トシテ陣車ヲ川
筋ニ三好時宗大夫ヲ迎ヒ陣ヲ四月五日ニ
日迄ニ成ル左京ヲ陣ヲ新、安宅摂津守天王
寺ニ出ル十日ニ摂ヲ畠山方ハ政軍ト言ル、退
紀州方ニ敗ヲ成ル二月ニ入ントセシ摂津守ニ
陽ヲ命限数刻降参ヲ計頂ル陽川真光安

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03992

山中河内守（新四郎）一族郎従等数百人、目良、山崎、神戸、
神、青木、白樫、山田、飯沼兵等、根来寺ノ衆徒
二万餘、秋日時ニ対死名ヲ後代ニ残レケリ
斯テ安宅善太郎ハ、猶紀州ニ城ニ籠ル相陪輩ニハ安宅
士ハ言ニ及ス、荒美濃ノ太守、左兵衛太夫新興、今井集人
佐、但馬大夫、日右馬頭等ノ方カ五千餘騎、篠田信長ハ数万
騎ヲ以押寄ル、懸中ニ兵庫ノ助大夫、中ニハ懸河ヲ千餘
人ニ敷ニ廻テ迎撃大将安宅善太郎合戦ス、目良大夫之指
図、樫山、塩谷、木曽、久保、中田、鳥部等ヲ使ヒ、安宅
領小川村ニ打退、誉居セラレケル
又安宅河内守ハ、河内国良ニ居城有ル所ニ、下知信
ヲ羽柴筑前守ニ寄ス、但田勝九郎ト共ニ天正九年

己十月十五日ニ寄ヲ塩谷、濱ヲ由良城ヲ攻、両ニ寄ヲ
囲ミテ鉄炮ヲ打入数万ノ家手喚叫ヲ聞ク、討死セシ
給ヒ名ヲ残サントテ、荒木ハ一族信長ニ世ヲ成逆
両ノ時宜ニ降ク、成将軍ニ属シ申サカ又ハ言ヲ切又ハ経
歴ニ、結日ニ、新ニシテ命ヲ捨ヘキ、変イト安キ事也トナガメ
しかハ河内守無ルレト日ハ幹濱ニ寄ル（敵ヲ攻）信長
注ヲ取ツ、両将、降人之由ヲ達、斯ル一両将同前ニ城
ヲ相濱サル事止ニ計ハントテ、スナハチ城ヲ取ル信長ハ、
嶽レニ案引ニシテ、安宅善太郎ハ数度ヲ勝河内守ハ安宅
賀ニ城ヲ持守、ハ十二月二日ニ本国ニ帰城ス
後ニ毎安宅善太郎河内守ハ籠知原ニ退キ安
宅ニ警固ヲ加ヘ逝去（知原河内助神也也）安宅河内守

ゆゑに退城紀州に来る。甚文京亮之ハ逐電迯くれしか金一門上を恐れ逆意を挙て帰国し二人一日中百騎ばかり会合し中所作皆之を逆業と同ハ申なきに罷陳深き身之報答の義を多く人々を変ぜ少なからず又一門の仇を報せんと思ひ潮を吉カ如し仰迯に入自信友人且親族之苦提を トムラハント 慨歎之心頻りに発起して終に所沙田小松島に一宇を建立釋家是ト法名を先善寺是也三好黨絶。トカ。敬々こ城を所々に討ル安宅其外病死やゝ後ハ一城を守者トハ安宅を嚴トハ當家正流と云ナリ類族皆浪人頼ハ十方を漂泊同様に安宅川迯口十餘

時に天正十三年丑閏月廿日（三月廿日ヨリ）根来寺を焼き公十餘様を以て紀州を退治トセシ三月十四日（三月廿日ヨリ）太田ノ城を取巻クト同ハ無也ハ仙石権兵衛 秀吉 久左衛門（ひさかねヨリ） 蜂屋 付添寄ヲ大将トシテ海陸より乱入湯川山本、月良ナドハ家々全敵ニ及ト雖也ハ所々に討レケル安宅を嚴ハ屋敷に火を付、中入レカハ本知五上ケラレ婦子左近丞ハ断 千ハ有餘石下り賜り逃迯ハ人士ニ宅ラレケル時也トハ云ナリ 古ハ名者トモ有ラ基ハ口惜キ次第也

右八人ニ士ト申スハ

文門原華刀弓七初ハ安宅ヲ云

ヲ原華刀（ヲ嚴一型トヲヨリ）

内参見主馬大夫（千八百石内参見二百）
宮川京常刀（八百石 内参百）
名行 三九郎（五百石）
玉置小一郎太（一千石）
小山助之進（八百石 内参百）
小山求馬（三百石余 内参百 上、久不二百）
新宮塚之内（本知共使物ん）
大野、石田、長束、宗田、長柄等ニ生捕ル人数ニ有リ
大和大納言秀長之指下ト聞ル 然ル人衆ハ内ニ也則ハ
人衆伏見ニ文付ル 諸ヲカ石田治部少輔返送ス時一
味同心知行弾ス 石板サン 左近進ハ大阪京極ニ居番
致シ共後浪人 安宅村ニ居ル 其子左近亜信宗（宗ハ

左近亜一子ナリ 第信宗家督 浦八郎ト云 宮春ト云）阿波
国ニ出陣シ 大和大納言ニ先陣紀州和山ニ至ル和泉守ニ
先陣家中大将討死 同京 小田原 同和泉守先陣 山地
市陣ニ 本田内膳宗ニ先陣家中大将討死 京泰ニ和
泉守ニ先陣 家中大将ニ出 板倉刑部亜 林清蔵 古
名備後 板本新名新 亜本市良左ヱ門 田井 土井
福田茅ノ伊ニ出陣 板倉刑部亜ハタイシャムシト云フ
汐家ニ大将ニ対 刈市武 松左近亜（源八郎 ムネ書）信宗ニ
賜ル共外所々ニ出陣 功名ス（京泰ニ家ニ九人迄ト素ハ安
宅村ニ繁多ニ也）サテ又左近亜信宗一子ナリ第左近助
重春ノ家督大坂一乱ニ頃ハ浪人ニ 父ナ安宅村ニ居ケルカ
津ニ住居ス門ニ 新ニ申ニ依テ左近亜ニ

昭之人手ヨリ銀弾六ツ家人共ヲ撃ち大坂ニ帰家ハ全ク
日見ニ馬ヲ預ケ五十人下リ居リ
大坂家ハ城ニ籠ル人子鳥羽ハ警固トケル事ハ清盛ヲ呼来
ワヨリ安芸ヨリ下ル人ヲ百余騎人質トシテ田辺ヲ安芸ヲ文
ヲトケル
其後安芸ニ一族家人ナトニ告ケ一人ヲナレト銀ヲ矢田儀(経カ)
殿ヲ者我等ハ家ヲ出ル六年ニ入ケルハ通ヲ士
ト其時皆武ヲトケル左近ハ数ヲ通ヲ同ル一人ハ大
者難儀ハ及ス本意ナラスト日置正光ハ逃帰在
ヲ切腹イタサレハ家ヲ教経ハ崎ヲ左近ハ逃ヲ者
ニ頼ル矢田儀殿ヲ聞トテ上井平左(久本ハ
山城邦第也)鳥羽ニ参リ田辺ニ行ニ向ヒ来ヒ難儀

ニ及ヒ敗中村又右衛門ハ家ヲ切腹ヲ入ル重ヲ何
ヲ言ヲ安芸ヲ村ニ帰リ住ヲ事ト段ヲ警固イタ
ケル

事ヲ公ヲ安芸左近ニ殺ヲ被下ル

知行所覚

安芸　盛望　日置　知原　一江　朝木屋
早崎　古座　大谷　矢田　田辺井　ヒケ谷
安芸　十川　一乗坊　金川　大野　柿塩内
小谷　仲之　宇村　九川　里谷　原
木宮　白川　小谷　田子　長浦　大向川
田子　里浦　見光寺　江住　住本　筋

南蒲九四ヶ一　田辺内　宮川　吉田　才望
平　高浜　芝村　中村　後地領　九国
陸奥　鳥ケ丁　宮原　江川　切目　南部内ニ皆ニ

天正年中河内国ニ蔵ス（一説ニ下ノ国ニ
安宅水三河守　同善文郎　同刑部　同海居左衛門　同三ヶ丞
同大膳　同三郎左衛門（後他国ニ）　同佐吉　同佐右衛門　同宮吉
国吉衆　法花衆　宮部衆　下田衆　上望　伊達　来望　山角
三ヶ森　竹原　大野　卜田夜三郎　四宮衆　吉田民部（後紀州ニ）
村瀬衆　池田　久保寄ニ郎　埜田氏後　中田　賀部　鈴木
安田　一和田　久保善左衛　大田　杉本　矢埜　遠江　左地　生望
又衆　吉井衆　一宮　安部　神田　熊宮　東条　川端　新田　竹条

吉本七郎兵衛　吉本七郎兵衛

塩田　弱長　重法　大西　石川　戸川　演望　竹内隼人　野中
京左衛　畑田九郎　詞法　吉本郎兵衛　南衆　竹屋　林　原田
楊　吉本　原　二郎　国井　吉本郎兵衛　小林内記　流辺
南衆　大阪衆　小谷由右　伊達　鈴屋　秋山大郎　秋山衆
大友　田部　小林　木村　川口　楊井　玉置　飯田　左衛門八
宮田　里見左右　神田　津村　久保次　仙崎衆　天羽　石田
清水　津刀左ニ亞　三好左衛　三好左衛　長谷川　瀬口　中
村三郎　二本六郎左亞　大江衆　中村　高浜　西島　夏目　新
土佐伝左　宮衆　大膳　山口　大森　中井　宮井　猪蔵　小笠
原一郎　山崎　中安　山林　大谷　宮井　小塚　太田　安達　浅
野　多田　三田　松浦　松原　十松原　高田　坂井
長谷寺　皆　安宅三ヶ　鈴宮衆　用人　吉外清士ニ内　長谷

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03992

筑前の国ハ代々所領ハ十ヶ所ハ安芸家所領ハ其後ハ
但国ハ隣り豊之国ハ高城中ハ小倉ハ在所なるゆへ又他国なる
有り其後軽き臣家数多離有り先ハ増田之本三ヶ所
十ヶ所ハ苗字なれ物又三好ハ淡路ト言ハ四国ハ多淡路ハ
泉又他隣国ハ数多有り故紙上ニ不べかラス

大野　矢田　坂本　中村　田井　須田　小松原　林　一和田　智
柏本　生本　三原　大浦　古屋　金子　竹屋　角木　海老　桜
北　東　南　笠井　山本　地蔵　吉田　中野　森
三ヶ　朝倉　峠　前　山中　原　鈴木　土井　宇佐　小山　佐本
長井　宮地　清　小坂　秀金　海上　宮名　久保　姫田　志地
高尾　桂谷　海　松本　知物原　中島　宮　桂野　四宮　福尾

桂　桜山　長原　大坂　宮田　三味　北屋　生駒　御厨　村上
大岡
是皆代々無型諸士ニテ無筋則信国ハ豊之高ト云
市日ノ安宮氏　橘ニ坂ヲ付事ハ謂有　備後ハ千頼藤
全ク小地家ニ有リ　暮子ト相見ル頼藤ハ橘之姓ヲ云ニ豊
ツツヲ橘ヲ坂ニ付クモ有サレトモ代々陳之姓ニテ豊ノ坂ヲ付
ルニ郡十ヶ所ハ兄弟ニテ皆ヒシノ紋也寺社所々ハ建立者
数多シト云々
嫌ヶ谷左門、真砂左門、陽州左門、玉置左門、安田左門、湯浅
左門　安宮左門　鈴本左門
南紀八左門ト書　此家々ニ申新　総ニ書ハ一左ニ一人ハ左門ヲ

立置ヒト兼ル大師ノ家ヨリ出ヒ、二度目ト半載時セカ
ケツヲ何ヲ八左ヱ門ト云ヒ定雅ニ帰国ニ一度目者数多
ニ

右ハ西年奉祈日置村大字笛宮ノ舊家山安宮氏ノ傳来ノ古
文書ニヨレハ開参見所田所頃源方（改名ノ生母静江ノ
ハ日家系譜豊ヶ崎所法壬業寺重ヒ元録数点ノ中ヨリ
抜書昭和六年秋田所四郎家ノ古文
漢字又ハ定仮名ノ誤字ハ大機原書ノ儘之ヲ収メタリ

昭和十五年六月発奇宮氏ノ所有ヲ借リテ之ヲ写ス
宇井 祿水
昭和十五年八月二ノ字井祿水氏ノ所有ヲ借リテ謄写ス
中根 勲筆

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03992

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03992

91
56

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03992